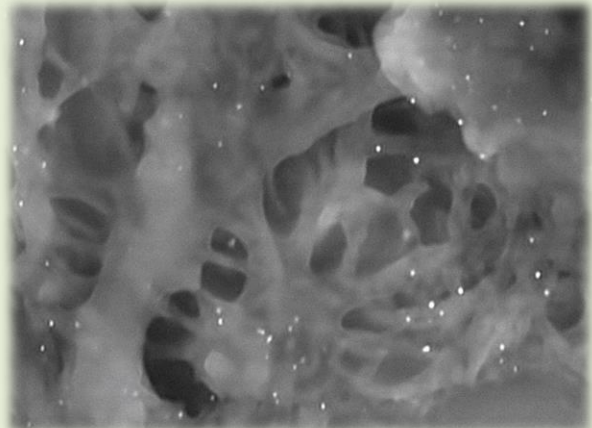
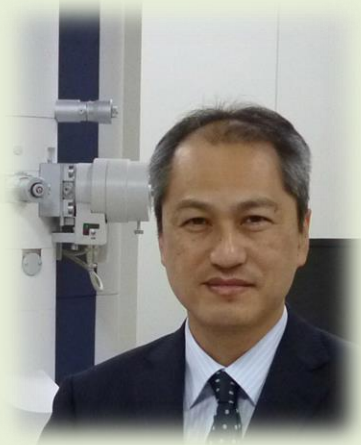


第20回医学生物学電子顕微鏡シンポジウム

◆会期：2022年9月24日（土） 13:10~14:40
◆会場：ZOOMによるオンライン形式

20th Symp. テーマ “かなり役立つ” 電子顕微鏡観察の魅力



「新たな金ナノ粒子標識法」抗synaptodin抗体/DAB標識。ラット腎臓糸球体足突起に金ナノ粒子形成（澤口先生ご提供）

教育講演 **澤口 朗** 先生 宮崎大学 医学部 解剖学講座 超微形態科学分野 教授

ご講演要旨

ブラックジャックと
ラグビーを愛する研究者 澤口 先生
命と向き合おう
新たな治療法の開発につながるべく
電顕解析へ挑戦をし続けておられます。
今回は、次のご講演を頂けます。
待遠しく、ワクワクしますね。

『デスクトップ型低真空走査電顕の特性を活かした パラフィン切片立体構造解析 と 新たな金ナノ粒子免疫標識法開発と未知なる可能性』

本講演では、第一部としてスライドガラスに載せた光顕用切片を帯電防止処理なく観察できる低真空走査電子顕微鏡の特性を活かし、生体組織の微細構造を立体的に捉える「厚切り切片観察法」をご紹介します。

続く第二部では、厚切り切片観察法をもとに生体物質の局在を高精細に可視化する「新たな金ナノ粒子標識法」の開発経緯と研究成果について解説し、医学生物学の幅広い研究領域で応用が期待される“デスクトップ型低真空走査電子顕微鏡”を用いた生体構造解析に秘められた無限の可能性を共有します。